豊田市美術館

1995 年に開館した豊田市美術館は、市の代表的な観光スポットのひとつ。市街地を見下ろす高台に位置し、かつて挙母城があった場所に建っている。年に数回開催される意欲的な企画展で知られている。また、常設展では、所蔵作品を中心としたローテーション展示と、若手の現代美術作家を中心とした小規模な展示を行っている。

美術館のコレクションには、グスタフ・クリムト、コンスタンティン・ブランクーシ、今村紫子、岸田劉生などの著名な国内外の芸術家や、奈良美智、オラファー・エリアソンなどの現代の芸術家の作品が含まれている。また、ル・コルビュジエやドナルド・ジャッドなどの近現代の家具もある。

また、美術館自体も芸術作品である。本館の設計は、後にニューヨーク近代美術館の改修を手がけた建築家の谷口吉生（1937 年生まれ）が担当した。建物は、曲がりくねった小道や木々に隠れていて、訪れる人に徐々にその姿を現すように設計されている。1 階には企画展スペース、常設展示室、そして一直線上にレイアウトされているギフトショップがある。1 階の部屋は自然光が入らないため、日光に弱い作品の展示に適している。また、2 階へと続く階段の壁の一面には、歴史上の思想家や芸術家、支配者の名前が記されている。上階は天井が高く、自然光がふんだんに入り、主に現代美術や彫刻が展示されている。この建物は、暗い最下階から明るい 2 階、3 階へと上昇するにつれて、訪問者が進歩を感じられるように設計されている。それが顕著に表れているのが、3 階の回廊の緩やかな上り坂だ。

この美術館では美術以外にもさまざまなアクティビティが用意されている。名古屋の有名フレンチレストラン「壺中天」が運営するレストランでは、和風の洋食やデザート、ドリンクを楽しみながら豊田の街並みを一望できる。また、ランドスケープデザイナーのピーター・ウォーカー（1932 年生まれ）が手がけた彫刻庭園もある。市街地を見下ろす大きな屋外彫刻テラスにはリフレクションプールがあり、建物と屋外作品の鏡像が移り変わるようになっている。

「童子苑」という茶室は、谷口氏が伝統的な茶室を忠実に再現したもので、ミニマリズム、クリーンな線、柔軟な空間利用など、日本と現代の建築に共通する要素を表現している。ここでは、抹茶と季節のお菓子をインフォーマルスタイルで楽しむ。同じく谷口氏の設計による高橋節郎館は、漆芸の先駆者である高橋節郎の作品を展示する別館である。